



**内臓の問題改善
胃痛・胃炎・胸やけ編**



もくじ

1 : 餃子で胸やけ	3
2 : 神経性胃炎後の肩痛	6
3 : 胃炎と腸炎で、食欲不振！！	10
4 : 会議で胃痛！！	14
5 : ストレスで胸やけと胃痛	18
6 : 鍼を始めてから飲んだ次の日が楽になった。	21
7 : 下半身の筋力強化で改善	24
8 : 足も肩も不眠も原因は運動不足？	28
9 : 胃からきた足底痛や肩痛	33
10 : 治療中の歯が原因となった胃痛と肩痛	37

❖ 1 : 餃子で胸やけ

今日は私事。

昨日の夕食は、大好物である餃子の食べ納をしました。(〜
〜)

そして、大満足のまま、就寝したんです。

すると、真夜中、珍しく急に眼が覚めてしまいました。

いつもこんなことはないので、「珍しいな。」と思いながら、
再度寝ようとする・・・？

胸が急に熱くなり、吐き気がし始めたのです。

原因は、餃子の油に中ってしまったようです。

しばらく、我慢して眠ってしまえば、何てことはないだろうと思っていると、どんどん症状が重くなってくるのです。

「これは、さすがに何か治療しなければならないな。」

と思いましたが、鍼は、そばになく、取りに行くには遠すぎる。

そこで、枕元にある治療道具（必ず、何かしら治療道具を置いているのです。）で何とかしよう。

まず、手足のツボを探り、ツボの反応から、銀粒を張ることに決めた。

左手に1か所、左足に2か所、おなかに1か所貼ると、急に痛みがなくなった。

助かったと思い、ホッとした瞬間、さっきまでの苦しきは嘘だったかのように、朝まで眠ってしまいました。

いつもより、2時間も長く深い眠りにつけたことで、起きた時にはすっかり治っていました。

❖ 2 : 神経性胃炎後の肩痛

50代 女性

半年前に、息子さんが心も身体も病んでしまい、その心配でひどい神経性胃炎を起こし、入院。

ようやく退院すると、右肩の激痛で押しつぶされそうな感じ。

動かすこともままならない状態。

背中を診ていくと、まだまだ胃の状態は良くない。

それだけでなく、肝臓、心臓、腎臓の働きも弱っている。

特に肝臓の影響が強い。

これは、薬による影響だろう。

右肩は、肩甲骨が完全に固まっているが、むくみも強い。

まず、内臓の方から、鍼による治療を開始する。

すると、首は大分ほぐれてきて、肩周りのむくみも少し減少してきた。

仰向けになり、横隔膜中心にガッチリと固まっているお腹を、手足のツボに鍼を行いほぐす。

最後に、右側を上にして横向きに寝てもらい、右肩の運動針で肩周辺のこわばりを取り除く。

起き上がり、肩の状態を見てもらおうと「すごく軽くなった。」
と言いながら、回せなかった腕をぐるぐる回している。

さらに、立ち上がり、「胃がスッキリした。治療の最中から、
急にお腹に詰まっていたものが取れたような感じがした。
久しぶりに、こんなお腹が軽くなった。」と非常に喜ばれた。

胃・肝臓・心臓の異常が起こると、筋肉が過緊張を起こす
ことが多い。

この方は、息子さんの心配で心臓を弱め、胃炎の治療に使
う薬の影響で、肝臓を痛めた。

結果、筋肉の異常を起こしてしまったのである。

右肩の意味はそれほどなく、どこに今回のような痛みが出

でもおかしくない。

病気になっていなくても、内臓の異常信号は必ず、身体や精神によって現れる。

これを見逃さず、治療できるのが東洋医学の素晴らしいところである。

❖ 3 : 胃炎と腸炎で、食欲不振！！

30代 女性

1か月前に風邪をひき、その後腎結石、胃炎と続き、風邪による腸炎で、食欲不振に陥る。

5～6年前から胃炎になりやすくなったとのこと。

まず、うつ伏せで背中を触ると、肩甲骨の間は、非常に固くなっている。

その中でも、肩甲骨の下のラインが、最も固く盛り上がっている。

この盛り上がりからは、横隔膜と肝臓の機能低下がうかがえる。

全体的にも、胸郭（肋骨で囲われている領域のこと）の固さが目立つため、呼吸が浅く（鼻の症状も考えられる）緊張しやすい（胃が活動しすぎていることも）こともわかる。

そして、胸郭が固くなっているということは、肺炎や喘息をはじめ、花粉症やアレルギー性鼻炎の可能性もある。

この患者さんは、花粉症であった。

肝臓に関しては、小さい頃から抗生物質を飲み過ぎていることや、この1ヵ月間、ほぼ薬漬けだったことが影響しているのだろう。

まず、胸郭が動かなければ、横隔膜が動かない。

横隔膜が動かなければ、腹部内臓の全般的な機能低下を引き起こす。

そこで、胸郭を動かすために、整体を行う。

次に仰向けになってみると、腹部全体が緊張して固まっている。

この固さは、腹部臓器全てが冷えている証拠。

治療を始める時に、鍼灸はやりたくないとのことだったが、この状態ではお灸をやるべきである。

お灸の数は最小限にとどめ、絶対火傷を起こさないことを条件に、お灸をやらせてもらう。

お灸を始めてすぐに、「あっ！呼吸が深くなってるう！」と、患者さんが驚く。

そして、どんどん腹部の固さも取れてくる。

そして、最後に「胃も動き出してきました。」ということで、治療を終了した。

この患者さんのように、病気の急性期には、しっかり病院で対処してもらい、ある程度回復してきたら、後の処置は、**鍼灸**や漢方を併用していくと、スツキリと治りやすいものである。

病気は治ったはずなのに、何となく調子がおもわしくない方は、近くの東洋医学家を訪ねてみてはいかがでしょうか。

❖ 4 : 会議で胃痛！！

30代 女性

最近、会社で会議中になると、必ず胃が痛くなる。

薬を飲んだり、病院へ行くのは嫌なので、何とか治してほしいと来院。

まず、仰向けで脈を診ると、胃の興奮はなく、逆に胃腸の機能が落ちている状態であった。

さらに、お腹を触ると、下腹部の固さが強く感じられる。

基本的に、胃痛となると、胃炎や胃潰瘍を警戒しなければならない。

そして、その場合大抵は、胃の脈が興奮していて、上腹部に固さや抵抗が現れるものである。

しかし、この患者さんには、どちらの所見も診られない。

しかも、症状が出るのは、会議中のみということである。

であれば、会議中に何か胃に負担となることがあるはず。

胃は、緊張感やプレッシャーを感じたり、刺激物を取ったりした時に、痛みを発することが多い。

会議中の緊張は全くないとのことで、飲食物を聞いてみると、会議中は、必ずコーヒーを飲んでいるらしい。

しかも、ブラックで。

これで、原因は、コーヒーであることがわかった。

コーヒーは、刺激が強いため、日本人の胃腸には合わない飲み物である。

従って、飲むときには必ず、何か食べながらか、食後に取らなければ、胃を傷める危険性が高くなる。

胃腸が、かなり強いタイプの方であれば問題ないかもしれないが、この方は、完全に胃腸の機能が低下している。

そして、会議中に食べ物を口にすることはできず、コーヒーを飲むのは、必ず空腹時である。

これらのことから、治療は、胃腸の機能を回復させることと、全体の疲れを取ることに。

これを、鍼で行い治療は終了。

後は、会議中には、コーヒーを飲まなければ大丈夫であろう。

胃腸の不快感は、完全に取れ、スッキリした表情で帰られたが、コーヒーが原因だったことは、かなり意外だったみたいだ。

❖ 5 : ストレスで胸やけと胃痛

40代 女性

「最近、胃の調子が悪くてえ。」と来院。

便通は普通にあり、食欲もあるらしい。

しかし、常に胃の周りが重くて、胸やけのような痛いような感じがしてつらいとのこと。

まず、うつ伏せで全体のチェックを行う。

背中を触った瞬間に、「すごいストレスですねえ！」と言うと、

「わかります？本当にすごいストレスなんです。」

「原因は、そのストレスなんでしょうね。」

「やっぱり。」

という、感じで話を進めていったが、ストレスにもたくさん種類がある。

その中で、この患者さんが受けたのは、緊張性のストレスである。

緊張は、心臓と胃に負担をかける性質があり、その反応がこの患者さんの背中と脈に現れていたのだ。

これを踏まえて、全身にお灸を行い終了。

「本当に芯からゆるんだ感じで、助かりました。」と、喜んで帰られた。

この方のように、即効的に効果が出る場合は、まだいいのだが、緊張性のストレスは、胸痛から心筋梗塞へ、また、胃痛から胃潰瘍などへ進行してしまうケースがある。

ストレスを受けてから、何らかの体調不良を感じている場合は、早急に対処することをお勧めする。

❖ 6 : 鍼を始めてから飲んだ次の日が楽になった。

40代 女性

1年ほど前から、健康管理目的で通い始めた女性。

11月後半から、仕事の忙しさと、連日の忘年会により、風邪をひいては治り、またひいて、薬と暴飲暴食で胃は荒れ放題となり、胃痛、胸やけがなくなり、段々食欲も落ちてきたとのこと。

そこで、鍼で、何とか、この忘年会シーズンを乗り越えられないものだろうか？という相談を持ちかけられた。

そんな治療は経験したことないが、ものは試しと、暴飲暴

食でやられやすい臓器として、肝臓、腎臓、胃を中心に鍼を行い、さらに、治療を受けていない日でも、治療効果を出せるように、円皮針（画鋲の赤ちゃんのような鍼で、皮膚へ直角に刺し、シールで貼っておくタイプのもの）や皮内針（皮下へ斜めに刺し、シールで貼っておくタイプのもの）をその都度状況に合わせて使用し始めた。

さらに、胃腸のツボがたくさんそろっている膝から下の部位を、入念にほぐすために、足裏マッサージも行った。

すると、試し始めて2回目の来院では、

「疲れなくなった。」

「風邪をひかなくなった。」

「利尿作用が高まった。」

などと、予想以上の効果が出たようだ。

そこで、もう一度、前回同様の治療を行うと、3回目の来院で、

「やはり、調子いいです。鍼を始めてから、全然酒が残らなくなったし、胃の痛みが消えて、美味しく食事ができるようになりました。」

と、嬉しい反応。

このような効果を、他の患者さんにも出せるかどうかは、試していないためよく分からないが、このような効果も鍼では出せるということを理解することができ、いい経験となった症例であった。

❖ 7 : 下半身の筋力強化で改善

30代 女性

腹部膨満感や腹鳴、貧血などの症状で、3年程前から苦しんでいる。

胃カメラや内視鏡検査、婦人科検診など全て異常なし。

漢方治療も行うが、効果はなかったとのこと。

どこで診てもらっても異常なしと言われるし、どんな薬を飲んでも効果がないため、自力で勉強するようになり、かなり身体について詳しくなっている様子。

しかも、東西問わず勉強されていたので、東洋医学独特の

用語も知っていたのには驚いた。

上記以外にも、花粉症や呼吸困難、胃腸障害、頻尿などもあり、全体治療をしなければならない状態。

そこで、鍼灸治療を10日に1度のペースで、4回ほど行った。

ところが、何も変化が現れない。

ということは、視点を変えなければならないということ。

従って、原点に戻り、問診から始める。

まず、貧血について聞いてみた。

すると、小さい頃から朝礼などで長く立っていると、必ず倒れる子であったとのこと。

また、腹部膨満感も立っているときに、非常に気になるとのことである。

これらから、立っているという共通点が出てきた。

そこで、身体のバランスチェックを再度やり直すと、全体的に診てみるとバランスは悪くないが、年齢と体格的に診ていくと、太ももの筋肉がやや貧弱なような気がする。

そのため、この日から太ももの筋トレを行ってもらうことにした。

すると、1ヶ月後には、かなり体調が良くなり、身体全体

が楽になってきているとのことだった。

胃腸障害や貧血があることから、吸収力が落ち筋肉が少なくなっていると思い込んでいたのが間違い。

元々身体を支える筋力が少なかったようだ。

筋力が少なければ、血液の産生能力も落ちるため貧血も起きる。

当たり前すぎることで、考えから抜いてしまっていた。

まずは、人間の構造をもっと重視した考えを持たなければならない、本当に勉強になった症例であった。

❖ 8 : 足も肩も不眠も原因は運動不足？

30代 女性

この数週間、いろいろな症状が現れ悩んでいるとのこと。

◎身体を前に曲げると、右太ももの後ろが痛む。

◎肩を回すとボキボキ音が鳴る。

◎寝ても2時間ほどで目が覚めてしまう。

◎食事を取るとすぐ胃が痛くなる。

などの、症状が日増しに強くなっているという。

まず、考えなければならないのが、胃痛である。

胃が痛むということは、胃酸が出過ぎているか、冷え固ま

っているかのどちらかだ。

そして、もう一つ、不眠があるということは、交感神経が働き過ぎている証拠である。

ということは、胃酸過多になっている可能性が高い。

さらに、胃酸過多で、胃壁を荒らしてしまった場合、脚と肩の前側の筋肉が硬くなる。

どちらも確認すると、やはり固まっている。

しかも、右側だけである。

この患者さんの症状は、脚も肩も右側に感じている。

これで、原因は、胃酸過多ということで、全ての症状を改善できそうである。

そこで、脈で最終確認をすると、意外にも胃の興奮性よりも、小腸大腸の機能低下の方が強く現れている。

これは、副交感神経が機能しづらくなって、交感神経が機能し続けているとも考えられる。

ところが、この患者さん、排便機能には全く問題がないという。

細かく質問をしていっても問題なさそうである。

では、何で腸の機能低下の脈が出ているのであろうか？

と考え、一つの答えを仮説として出してみた。

それは、腸で吸収障害が起きているのではないだろうか？
吸収できない代わりに、大事な栄養素も、全て排便として
出してしまっているのではないだろうか？

こう考えると、自覚的に常に疲労感があるが、食欲はあり
排便もしっかりしている。

しかし、食べると胃が痛む。
という、症状に合点がいきそうである。

これを踏まえて、胃腸の状態を整えることに集中し、お灸
を行った。

そして、立ち上がってもらい、前屈と肩を回してもらいと、
どちらも改善している。

後は、食事と睡眠の問題がどう変化しているかだ。

この患者さんの問題点は、腸の吸収障害にあると考えられる。

そして、その原因は、運動不足にあった。

一日通して、ほぼ身体を動かしていない日常があり、筋肉へ栄養を運ぶ必要性のない身体になってしまっていたのだ。

通常では、考えられないことであるが、現代社会においては往々にしてあるケースだ。

そこで、食前に使っていない筋肉を動かし、筋肉へ栄養を運ぶ準備を整えてから、食事を取るよう工夫してもらうことにした。

うまくいっていいのだが…？

❖ 9 : 胃からきた足底痛や肩痛

30代 男性

私「今日は、特につらいところ出てますか？」

患者さん「2～3日前に左の足の裏から、人差し指にかけてが痛かったが、もう治りました。今は、左肩が痛いです。」

私「ということは、胃ですね。」

患者さん「やっぱり！だと思ったんだよなあ。胃が痛いんですもん。」

と、いう当院では、日常会話になりつつある光景。

始めて見た方は、まったく何の事だかわからないでしょうが、当院に通い続けていると、このように、症状と原因が何となく見えてくるようになるのです。

まず、胃経ラインについて。

ツボというのは、バス停のようなところで、必要な時に何か（気）が集まって、形を現わすもの。

そして、経絡というのは、バス通りのような、身体の中の流れ道であり、その流れの中を、常に気が巡っている。

この経絡は、五臓六腑一つ一つに、一つの流れがあり、身体全体を調整している。

その胃の経絡（胃経ライン）に、異常が現れた時には、胃

の異常があると捉える事が出来るのだ。

そして、今回の患者さんの痛んでいた部分が、胃経ラインに出ているため、胃の症状であるということが分かったのである。

そして、そして、このような説明を毎回毎回、患者さんと繰り返していることで、自然と患者さんも理解してくるため、どこかに症状が出た時には、これは胃だな！これは腎だな！と、わかるようになるのだ。

もっと上級者になると、自分で**お灸**を行い、初期的な処置は済んだ状態で来院される方もいる。

東洋医学で、身体を診ていくと意外と簡単な部分が多いのだ。

話は戻って、今回の症状に対しては、仰向けから始め、お腹の胃のあたりがものすごく張っているのを確認しながら、その張りを、手足のツボに鍼を刺し、張りを取り除き、最後に、横向きで肩の動きを改善するために、鍼を行い終了とした。

立ち上がってもらおうと、

「胃が楽ですう。」

と、全身から力が抜けた状態になっていた。

しかし、仕事の忙しさとストレスは、これからが本番ということで、また胃を痛めそうなため、飲食等の注意事項を伝えておいた。

年末年始は、仕事も飲み会も忙しい時期、少しでも睡眠を取るように心がけよう。

❖ 10 : 治療中の歯が原因となった胃痛と 肩痛

30代 男性

年末から始まった胃痛で来院。

患者さん本人としては、年末年始の暴飲暴食が原因と
思っているとのこと。

まず、うつ伏せで、身体全体をチェックしていくと、左肩
が異常に固まっている。

実は、この左肩も、年末から痛くなり出しているが、もう
少しで治るだろうと思っていたとのこと。

場所が場所だけに、胃との絡みがあると診ていただろう。

(胃が荒れている時には肩が固まりやすい。)

まずは、暴飲暴食で疲れている胃、肝臓、腎臓などを中心に鍼で整えていく。

大抵の場合、これだけで大分肩の固さが取れるものだが、変化しない。

次に、仰向けになってもらい、胃腸全体の調整を鍼で行うが、これもあまり変化しない。

そこで、もっと全体のチェックを行っていくと、首の固さもあり、この固さが顎と絡んでいるようである。

そこで、「歯の問題はありますか？」と聞くと、

「歯ですか？実は6年前から治療を行っているんですが、

「仕事が忙しくてなかなかしっかりと通えず、全く治ってないんです。」

「ということは、あまり嚙めないということですか？」

「まあ、慣れたのは慣れたんですが、飲み込んでいることが多いですかね？」

「それであれば、暴飲暴食よりも嚙まずに飲み込んでいることにより、胃酸が出やすくなって胃が荒れてしまっているのではないのでしょうか？」

「そういえば、急いで食べている時ほど胃が痛むような？」

ということで、胃腸の改善は鍼で行うとして、食事の時には、しっかり嚙んで、いつも以上に細かく嚙み砕いてから

飲み込むことで、胃の負担を減らすように助言した。

さらに、物を噛むときに、治療していない側で噛むことが多くなってしまったため、顎の筋肉が左側だけ疲れていた。

その顎の筋肉も、腕に鍼を刺し誘導的にゆるめた。

すると、左肩の固さも少しゆるんだようだ。

立ち上がってもらおうと、肩から背中、さらにはお腹も非常に軽く楽になったと喜んでいた。

このように、意外な原因で意外な場所に症状が出ることが多い。

このような場合、病院で診てもらっても、原因も病因も分からず、下手したら「異常ありません。」などと言われかねない。

しかし、東洋医学（鍼灸や漢方）の場合では、全ての症状が、その人の身体に必要なだから発症していると考える。

従って、症状を取りつつ、体質も改善されていくこととなるため、

◎疲れにくくなった。

◎風邪をひかなくなった。

◎夜熟睡できるようになった。

◎足がつかなくなった。

◎花粉症が出なくなった。

などと、主訴でない症状も治るケースが少なくない。

このような医療が日本には眠っているというのは、非常にもったいないことである。

もっと**健康**になるために

もっと詳しい健康情報をご希望の場合には、下記から、
全102ページ、販売価格1,980円

あなたの症状が治らない9つの理由

というレポートを無料でプレゼントさせていただいています。
このレポートを請求していただいた方は、健康に関する情報が、ご登録のメールアドレスに、毎日届くようになります。
このレポートとメルマガだけでも、十分にあなたの症状を改善するヒントを得られるような内容になっています。
こちらから無料で請求できますので、積極的にこの機会を利用してみてください。

レポート請求はこちらをクリック



QRコードからも請求できます。



作者：キュアハウス鍼灸治療院 院長 中村幸生

メールアドレス：info@curehouse.jp

★共に健康になり幸せな人生を歩むための学びをしていきませんか？：「キュアハウスの健康幸生塾」

<http://curehouse.jp/blog/kouseijuku/>

★どの健康情報とも全く違う視点であなたの症状を取り除く教材がそろっている：「キュアハウス健康情報館」

<http://curehouse.biz/>

★原因不明の症状を徹底的に解明し改善法を手に入れることができるブログ：「原因不明の痛みや病気を改善するたった3つの秘訣」

<http://blog.livedoor.jp/curehouse/>

★病院や治療院に何度通ってもなかなか治らない症状を専門とする鍼灸整体治療院：「キュアハウス鍼灸治療院」

<http://www.curehouse.jp/>



このレポートは、医療に頼らずに、自分自身で症状の原因を見つけ出し、病院の無駄な待ち時間の間に、自ら症状を改善できるような知識と技術をつかみ取っていただくためのヒントを掲載しています。

このレポートにより、あなたの将来における不安が少しでもなくなれば幸いです。

株式会社キュアハウス
キュアハウス鍼灸治療院
院長 中村幸生